

令和元年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

はじめに

北区教育委員会 教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、令和2年3月に策定された『北区教育ビジョン2020』では、取組の方向の一つとして、「0歳からの育ち・学びを支える」を掲げ、「地域と一体となった教育の推進」、「就学前教育・保育の充実」、「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置を行うこととしています。

小中一貫校については、平成30年度から、神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校学校経営検討委員会及びカリキュラム検討委員会を立ち上げました。3校がカリキュラムの検討や行事の合同実施等を通して、教育内容のより一層の充実を図るとともに、令和6年度の開校に向け、段階を踏み、丁寧に取り組んでいます。

そして、将来的には、北区における「小中一貫教育の発信源」として、その教育的成果を、他の区立小・中学校に活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小 ・たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小

・さくらだこども園)

1 交流・連携の方向性

(1) 研究主題

自分の問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成
－「深い学び」を実現する授業スタイルの探究－

(2) 研究の内容と方法

- 研究成果の継承と発展 過去2度に渡る、幼小中一貫教育の研究成果を共有した上で、新たに令和元年・令和2年度の北区教育委員会研究指定校として、サブファミリー全体で研究発表を行うために、今年度の研究を進める。「知・徳・体」の3分野を8つのチーム（8分科会）で編成し、研究主題に沿った教科の授業スタイルの実践に取り組み、「自分の問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成」に努める。
- NIEのつながり NIE教育を連携の土台とし、朝のNIE・新聞タイムの実践における成果を検証し、工夫、改善を進める。こども園・小・中の発達段階に沿い、新聞を授業の素材として活用する実践を重ねていく。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- 第1回運営委員会【4月1日 王子桜中にて】
 - ・組織及び研究内容の検討、年間計画作成
- 第2回運営委員会及び研究推進委員会【1月29日 東十条小にて】
 - ・1年間の反省、次年度計画の立案
- その他、6回の研修会後に分科会リーダー会議を実施。
研究推進委員会を随時実施

(2) サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
4月25日【木】	王子小	合同研修会	全体会：今年度の研究方針の確認と具体的研究計画の検討。さらに、研究の主題に関わる講演会の実施
6月10日【月】	王子小	ファミリー研修会	分科会：6月19日の研究授業指導案検討
6月19日【水】	王子小	第1回学校ファミリーの日	王子小教員による研究授業 分科会での研究協議

8月30日【金】	王子桜中	ファミリー 研修会	講演会 分科会：9月18日の研究授業指導案 検討 交流親睦会（バレーボール他）
9月18日【水】	王子桜中	第2回学校 ファミリーの日	王子桜中教員による研究授業 分科会での研究協議
令和2年 1月22日【水】	東十条小	ファミリー 研修会	分科会：1月30日の研究授業指導案 検討
1月30日【水】	東十条小	第3回学校 ファミリーの日	東十条小教員による研究授業 分科会での研究協議・紀要原稿の作成 運営委員会での次年度計画の決定

○研修講演会(4月25日及び8月30日実施)

「自分の問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成」

講師：早稲田大学教育・総合科学学術院教授 小林 宏己 様

○その他の活動

- ・王子桜中、王子小、東十条小の3校合同の、保護者による引き取り訓練の実施
- ・中学生職場体験学習受け入れ(3日間)
- ・王子小との図書館フェスティバル(東十条小にも案内配布)

3 成果と工夫した点

(1) 成果(1年間の研究を通して)

- サブファミリー全体を通しての「目指すべき子ども像」の共通理解ができ、新学習指導要領実施を踏まえての授業スタイル構築を目指して学習指導案検討を行い、系統性のある教材開発、教具の工夫、授業実践をすることができた。
- 合同引き渡し訓練や図書館フェスティバルなど、サブファミリーとしての新たな取り組みを行うことができ、小中連携をより深めることができた。

(2) 工夫した点

- サブファミリー内の教職員のみ使用可能な特定公開フォルダを有効活用している。学習指導案や各資料を入れることで、各教員が自由に閲覧・編集・検討をすることができ、作業の効率化と指導案検討の充実につながっている。
- 夏季休業中の研修会の後に、こども園・小・中の教員が合同チームを作り、スポーツ交流(バレーボール)を行っている。指導案検討や授業研究だけでなく、共に汗をかきスポーツを行うことで、本サブファミリー内の交流がより親密になり、情報交換しやすい人間関係を構築している。

4 課題と改善の方向性

次年度の研究発表に向けて、サブファミリー全体としての共通教材(ツール)の活用など、取り組みを深め、より充実した研究を進めていきたい。

十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小・王子第三小 ・王子第五小・荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼）

1 交流・連携の方向性

- (1) 研究主題を「言語活動の充実 ～幼児・児童・生徒の主体的な学びの推進～」と設定し、研究を進める。（3年次）
- (2) 幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育を推進する。
- (3) 幼児・児童・生徒の交流学习の実施や地域行事を活用した連携活動を推進する。

2 具体的な活動

- (1) 調整や話し合いの実施
 - ・ 校園長連絡会（年度当初、年度末に実施）
 - ・ 運営委員会（副校長・教務主任 ※幼稚園は主任）
 - ・ 養護教諭連絡会など必要に応じて教員連絡会を設定した。 授業研究会全体会
- (2) サブファミリー全体での活動
 - ・ 授業研究会（年間3回） 6月19日（水）、10月2日（水）、1月29日（水）
 - ・ つまずきゼロプラン検討会 ・ 小学生の中学校体験入学
 - ・ 各小学校において、保幼小間の交流給食事業 ・ 園児の小学校体験入学の実施
 - ・ 中学生職場体験の幼稚園及び各小学校への受け入れ
 - ・ 北区連合陸上記録会に向けて中学生による陸上競技指導 ・ 新一年情報交換会
- (3) 「学校ファミリーの日」の授業研究会



第1回授業研究会 荒川小学校 授業 13:45～ 協議会 14:45～ 全体会 15:40～				
分科会	教科	学年・組	単元名	授業者
1	国語	1年1組	どうやってみをまもるのかな	堀田 桂子
2	社会	5年1組	わたしたちの国土	廣澤 綾子
3	算数	4年1組	四角形を調べよう	石鍋光智代 山岸 憲一
4	理科	3年1組	こん虫を調べよう	望月 大輔
5	体育	2年1組	マットを使った運動遊び	力石 真慧
6	外国語	6年1組	He is famous. She is great. 人物紹介	早川 貴康

第2回授業研究会 十条富士見中学校 授業 13:40～協議会 14:45～ 全体会 15:35～				
分科会	教科	学年・組	単元名	授業者
1	国語	2年2組	言葉のはたらき「敬語」について	伊東寿々子
2	社会	2年1組	日本の諸地域（中国・四国地方）	岡田 裕樹
3	数学	3年3組	関数 $y = ax^2$	島田 正義
				小暮 勝利

4	理科	1年1組	身のまわりの物質	星野 由佳
5	保健	1年2組	(男子) 器械運動「マット運動」	椎名 亮太
	体育	1年3組	(女子) 球技 ゴール型 サッカー	眞下 知子
	美術	3年1組	構想図～透視図法を用いて～	新田 弘子
6	音楽	3年2組	混声四部合唱「大地讃頌」	増本千扶美
	英語	2年3組	“Homestay in the United States”	黒瀬 由真

第3回授業研究会 王子第五小学校 授業 13:45～ 協議会 14:45 全体会 15:40～				
分科会	教科	学年・組	単 元 名	授業者
1	国語	4年1組	「ゆめのロボット」を作る	濱田 圭悟
2	生活	2年1組	あしたへダッシュ	清水 悦子
3	算数	6年1組	データを基に考えよう	小池 延佳
				石澤 昌史
4	理科	5年1組	電流がうみ出す力	金子友美佳
	道徳	1年1組	ぼくのはな さいたけど	二ノ宮さゆり
5	体育	3年1組	多様な動きをつくる運動	柏戸 光
6	外国語活動	2年2組	オリジナルのサラダを作ろう “I like tomato “	市野 佑弥
				クリストファー・ウォーシントン
【各分科会講師】 1…福生市教育委員会統括指導主事 酒見 裕子先生 2…練馬区立光和小学校指導教諭 根本 裕美先生 3…東京家政大学教授 石田 淳一先生 4…お茶の水女子大学客員教授 林 四郎先生 4…東京福祉大学教授 鈴木 邦夫先生 5…北区教育委員会教育指導員 高橋 美子先生 6…文京区立昭和小学校副校長 岡 文也先生 6…西東京市立東小学校指導教諭 菅原 陽子先生				

3 成果と工夫した点

年3回、各回6分科会の授業研究会を主軸に研究主題「言語活動の充実 ～幼児・児童・生徒の主体的な学びの推進～」に迫る幼・小・中の視点で協議や情報交換を行うことができた。幼稚園は昨年度に新学習指導要領が全面実施となり来年度から小学校、中学校と順次に全面実施となってゆく。各学校の特色を生かしながら、校園長を中心に連絡を密に取ることで実情に合いかつ無理のない形で連携を深めることができた。

4 課題と改善の方向性

これまで行ってきた特別支援教育の分科会を指導者や教員の人数の関係、及び特別支援学級設置校・巡回拠点校の有無や特質の違いなどの課題があるため、本分科会のあり方を検討したい。また、教育ビジョン2020の策定に伴い、次年度はサブファミリーのテーマとその内容等の改定を行っていく。

明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

1 交流・連携の方向性

キャリア教育を中心とした学力向上を特色として、以下の4つの柱で推進する。

- (1) 各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑な連携を図る。
- (2) 学習意欲の向上を図り、子供たち自身による学びの深まりを目指す。
- (3) 今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- (4) 9年間の小中一貫教育の推進により、教育内容の一層の充実を図る。

2 具体的な活動

日時・会場・活動内容

日 時	内 容
4月16日（火）15：30～明桜中 運営委員会①	新組織顔合わせ、役割分担 全体会の内容確認、全体会の仕事分担 育ちの分科会についての確認
5月29日（水）14：45～明桜中 全体会、授業分科会、運営委員会②	今年度の明桜中 SF の活動説明 授業研究分科会顔合わせ、係分担決め 6月明桜中での授業指導案事前検討
学校ファミリーの日 6月19日（水）13：45～明桜中 運営委員会③	授業分科会授業研究・協議 各部会報告、8月分科会の確認、あいさつの 取組について
8月28日（水）14：10～柳田小 授業分科会、育ちの分科会、 運営委員会④	10月柳田小での授業指導案事前検討 6つの課題に関して生活指導面の連携を図る 分科会報告、10月協議会 企画・分担準備
学校ファミリーの日 10月2日（水）13：45～柳田小 運営委員会⑤	授業分科会授業研究・協議 1月協議会案 児童会と生徒会の交流状況報告
12月18日（水）15：00～豊川小 授業分科会、運営委員会	1月豊川小授業指導案事前検討 1月協議会 企画・分担・準備 次年度計画検討
学校ファミリーの日 1月29日（水）13：45～豊川小 運営委員会⑦	授業分科会授業研究・協議 分科会 成果と課題（年間）まとめ 1年間のまとめ、2月全体会に向けて 次年度計画確認
2月27日（木）15：00～明桜中 全体会 運営委員会⑧	分科会研究報告 今年度の成果と課題・次年度計画の確認 1年間の反省

3 成果と工夫した点

① 特色ある取組

あいさつを重点取組として推進し、生徒会を中心にあいさつに関する標語を募集し、各校から募った標語の中から最終的に1つを決定した。その標語でのぼり旗を作成し今後各学校で掲示し、地域の学校が一体となってあいさつをさらに推進していこうという気持ちを高めることができた。

② 授業改善

3回のファミリー連携授業全てにおいて事前に指導案検討会を設定した。それぞれの分科会は校種はもちろんのこと、経験年数も様々な教員で分科会が構成されている。そのため、どのような学習活動がキャリア教育の視点とつながり効果的となるか、様々な角度から検討でき、授業改善に生かされた。

分科会での研究協議において、北区小中一貫教育カリキュラム・つまずきゼロプランを基にした授業の振り返りを行い、指導内容・方法の改善に向けて話し合うことができた。連携授業に幅や深まりを感じることができた。

③ 育ちの分科会

6つの観点（学級づくりで大切にしたいこと、学習習慣を定着させるための手立て、各教科における言語活動、家庭学習における家庭との連携、不登校児童・生徒指導）から分科会を設け、情報交換や意見交換を行った。校種や学校の枠を超え様々な改善方法などを話し合ったことで、小中のつながりを踏まえて検討することができた。



4 課題と改善の方向性

(1) 授業改善

次年度からはSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けての学習を取り入れた授業研究を行う。初年度は、どのようなことが各教科においてできるのか、各校とも手探り状態であるが、他校の実践事例を参考に取組んでいく。

具体的な実践方法

- ① 初回全体会において、講師を招聘してSDGsに関する学習会を行う。
- ② 各教科の年間学習指導計画の中で、SDGsに関する学習がどの単元で、どのように組み込めるかを各校で検討し計画を立てる。
- ③ 事前に指導案検討を行った上で、年間3回の研究授業を行う。
- ④ 研究授業においては、できる限り分科会ごとに外部講師からの指導助言を受ける。

(2) 生活指導

あいさつは今後も重点目標として取り組む。今年度作成したのぼり旗を各校で活用していくとともに、取組については運営委員会で報告し、地域としての連携を深めていく。

養護部会では、生活指導今年度モデル事業を受けた不登校児童生徒に関する内容の継続を含めて情報交換を行う。不登校児童生徒の家庭環境友人関係、児童の特性について理解を深め、改善への対応策を検討していく。



堀船中サブファミリー（堀船中・堀船小・滝野川第五小）

1 交流・連携の方向性

本サブファミリーでは、「情報活用能力の育成」を柱として、小中の連続した9年間の学びを視野に入れ授業実践を行った。育てたい児童・生徒像、めざす子ども像を「知育」・「徳育」・「体育」に分けて次のように策定した。「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指している。

具体的な組織については、下記の6つの分科会に編成して研究を進めた。分科会のメンバーは1年間固定でおこなっていった。

- ①国語 ②算数・数学 ③社会・理科・生活・総合
④英語・外国語活動 ⑤芸術・体育 ⑥養護

2 具体的な活動

6月10日 堀船中にて全体会をおこない、その後分科会ごとに指導案検討会

【国語】	国語科	1年2組	後藤 重美教諭 堀口 千尋主任教諭
【算数数学】	数学科少人数	2年1組	山根 純主幹教諭 橋本 梨乃教諭
【社会理科（総合）】	理科	1年1組	岩本 康弘主任教諭
	社会	2年2組	島貫 勝義主幹教諭
【芸術体育】	技術科少人数	3年2組	戸谷 康英非常勤教員
	家庭科少人数	3年2組	山口 孝子非常勤教員
【英語外国語活動】	英語科少人数	3年1組	窪田 良行教諭 土井 宏之主幹教諭
【養護】	不登校児童・生徒支援モデルサブファミリーの研究 養護教諭・SSW・教育総合相談センター		

8月26日 堀小にて夏季ファミリー研修（10月2日の連携授業の指導案検討）

10月2日 堀小にて連携授業（第2回ファミリーの日）

【国語】	国語科	4年1組	山田美智代教諭
【算数数学】	算数科二分割	2年1組	栗原 愛子主幹教諭
	算数少人数		西脇 輝久主幹教諭
【社会理科（総合）】	理科	6年1組	田中 良治主任教諭
【芸術体育】	体育科	5年2組	相磯 良太教諭
【英語外国語活動】	外国語活動	2年2組	鈴木 統大教諭
【養護】	不登校児童・生徒支援モデルサブファミリーの研究 養護教諭・SSW・教育総合相談センター		

1月29日 滝五小にて連携授業（第3回ファミリーの日）

【国語】	国語科	1年1組	矢澤 恵美主任教諭
【算数数学】	算数科	6年1組	大石小百合主幹教諭
【社会理科（総合）】	社会科	5年1組	高浦 卓教諭
【芸術体育】	体育科	4年1組	鈴木 誠教諭
【英語外国語活動】	外国語活動	2年1組	米山 拓也教諭
【養護】	不登校児童・生徒支援モデルサブファミリーの研究 養護教諭・SSW・教育総合相談センター		

2月18日 運営委員会 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 滝五小にて
《講師の先生方》

国語	東京家政大学進路支援センター 進路支援アドバイザー	三原 一浩先生
算数・数学	前第四岩淵小学校長	山本 英一先生
社会・理科・生活・総合	帝京科学大学教職特命教授	川上 彰久先生
芸術・体育	元北区立浮間小学校校長	伊田 周平先生
英語・外国語	前桐ヶ丘中学校長	永嶋 昌博先生
	外国語アドバイザー	若松 里佳先生
	外国語アドバイザー	三浦 邦子先生

3 成果と工夫した点

- ① 電子黒板や携帯情報端末、デジタル教科書などのICTを積極的に取り入れながら、情報活用能力を柱とした学力向上が、各校の研究発表でも明らかになった。
- ② 平成28年度堀船中、29年度滝五小、30年度堀船小とファミリー校が北区教育委員会研究協力校として研究発表を行い、子供たちの思考力や判断力、表現力を育成するために、主体的・対話的な学びを実現していく授業スタイルが確立してきている。
- ③ 小中一貫した基礎・基本の定着のために、小学校2年生から中学3年生までを対象に漢字コンテスト《漢字マイスター》を学年別を実施した。合格者には、ファミリーから賞状を授与した。ファミリーの一員である意識が高まり、学びの意欲を高めることに繋がった。
- ④ スクールソーシャルワーカー(SSW)を活用したサブファミリー内の連携や「学校と家庭の連携推進事業」の活用について研究を進めることができた。

4 課題と改善の方向性

各ファミリー校の研究によって授業スタイルが確立し、児童・生徒たちの学びに向かう姿勢や意欲が変容してきた。しかし、研究の深まりという点では、まだまだ課題がある。学校ファミリーでの育てたい子供像を全体で再確認するとともに、新たな課題についても三校で共通理解を図りながら、小中一貫教育のさらなる発展・充実に繋げていきたい。

第1回 学校ファミリーの日 堀船中



第2回 学校ファミリーの日 堀船小



第3回 学校ファミリーの日 滝五小



稲付中サブファミリー（稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼）

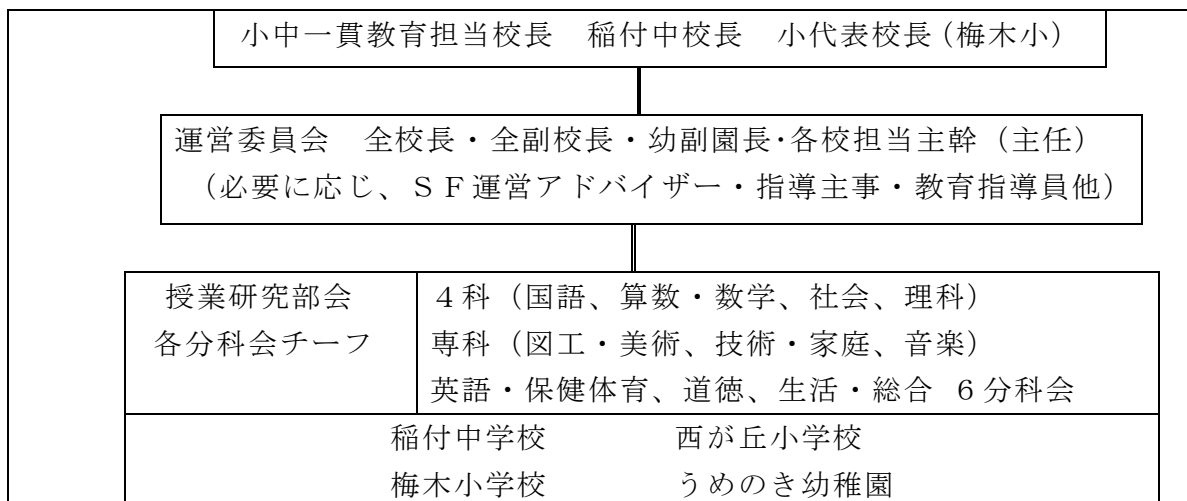
1 交流・連携の方向性

平成23年度から、稲付中サブファミリーでは、育てたい子ども像を「主体的に学ぶ子ども」、「思いやりのある子ども」、「心身ともに健康な子ども」として研修・教科の連携授業等を推進してきた。今年度も、これらをさらに具現化するために小中一貫教科カリキュラムの活用、道徳、外国語活動・英語の内容の検討、基本的な生活習慣の定着の指導（幼・小・中）を連携して進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めている。また、稲付中サブファミリー3校が指定されている「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」としての連携、合同行事の開催や、授業研究・体験教室の実施等協力して取り組んだ。

2 具体的な活動

(1) 稲付中サブファミリー組織構成

令和元年度



(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

実施日	会場	取組	内容
5月9日 (木)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、 6月学校ファミリーの日計画
6月19日 (水)	梅木小学校 うめのき幼	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月30日 (金)	稲付中学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
9月17日 (火)	稲付中学校	連携授業	教科分科会ごとに連携授業、研究協議会、つまずきゼロプラン検討
12月17日 (火)	西が丘小学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
1月29日 (水)	西が丘小学校	連携授業 運営委員会③	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ（成果と課題）

3 成果と工夫した点

- (1) 今年度も9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリーの一斉研修日を相談し設定した。幼小中の教員が6つの分科会ごとに集まり、指導案や指導方法、全員の役割分担を検討及び協議することを通して教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) ファミリーの日3回全てで幼稚園、小学校、中学校の授業研究を実施できた。授業後の6分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。その結果、令和元年度 北区基礎・基本定着度調査では、稲付中の全学年において、全国の正答率を各教科全項目で上回ることができた。
- (3) 特定公開フォルダー〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の活用の幅が広がり効果的である。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育アワード校(3校)として、1月29日(水)に西が丘小学校で連携授業とともに「オリンピック・パラリンピック教育報告会」を実施できた。研究授業や作成した実践報告書を通して、サブファミリー間で情報を共有することができた。またロンドンオリンピック メドレーリレー銅メダリストの上田 春佳選手、加藤 ゆか選手を招聘し、小学校2校合同水泳記録会を9月10日(火)に王子第三小学校で実施した。中学校進学前の6年生児童が一堂に会して親睦を深める機会を増やすことにより、児童相互の理解を深め、中学校入学後の好ましい人間関係の形成につなげることができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 授業研究での課題と改善
 - ・今年度は、4科(国語、算数・数学、社会、理科)、専科(図工・美術、技術・家庭、音楽)、英語、保健体育、道徳、生活・総合の6分科会で、オリンピック・パラリンピック教育に関する研究授業を実施した。ただ、教科によっては、オリンピック・パラリンピック教育を研究授業で実施することが難しい部分もあった。教科の分け方やグルーピングも含め、改善が必要である。
 - ・これまでは3回の学校ファミリーの日での連携授業を実施するとともに、報告会を別日に設けて実施してきたが、今年度は授業時数の確保や働き方改革等の面から、第3回の学校ファミリーの日に報告会も合わせて実施した。
- (2) 研究推進についての課題と改善
 - 一昨年度から稲付中サブファミリーは3校が「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」(豊かな国際感覚)に指定されている。また、「オリンピック・パラリンピック教育」の年間指導計画を踏まえ、サブファミリーで情報交換や共通理解を図りながら、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図っていく必要がある。今年度の課題をふまえ、組織の面では教科分科会を見直したり、効率化の面では報告会も含め3回の学校ファミリーの日で実施したり、より稲付サブファミリーの研究が推進しやすい方向に改善を図っていく。

赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

1 交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力をもった子ども」と設定し、以下の内容で小中合同研修や交流活動に取り組んだ。

- ① 児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。
- ② 授業においては各教科分科会における小中一貫カリキュラムに基づいた授業計画と実践を通して、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。
- ③ 「防災教育」に焦点を当て、「防災教育小中一貫指導計画」を策定するとともに、小中合同引き取り訓練（9月2日実施）や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災型教育を推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- サブファミリー運営委員会（各校校長）を年5回行い、活動方針の決定や3回の学校サブファミリーの日の内容や各校間で必要な調整の確認を行った。
- 10月2日サブファミリーの日に学力向上部会を開催し、学習のつまづきを始め実態を確認する。また、2月12日、中3小6担当連絡会を赤羽岩淵中にてファミリーの生徒の状況について情報交換を行った。
- 研究分科会
国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、特別支援・養護部会、道徳部会、防災部会の10分科会を設置し全員が分科会に所属し、各研究会の企画・運営を行った。また、小学生と中学生の交流も推進し、展覧会作品交流展示をすることや吹奏楽部との練習、小学校陸上大会に向け陸上部との交流を推進した。
- 第1回サブファミリー 全体会・各教科部会打ち合わせ
平成31年4月12日（金）午後3時30分赤羽岩淵中学校会場
全体の研究の進め方や各分科会の職員を紹介し1年間の研究・組織を確認した。

(2) サブファミリー全体での活動

- 授業研究分科会及び研究協議会について
 - ・ 第2回サブファミリー 授業研究協議会 北区学校ファミリーの日①
令和元年6月19日（水） 赤羽岩淵中学校会場 午後1時45分開始
 - ・ 第3回サブファミリー 授業研究協議会 北区学校ファミリーの日③
令和2年1月29日（水） 午後1時45分開始
赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小の各小学校会場
- 防災・安全教育について
 - ・ 小中合同引き渡し訓練実施 令和元年9月2日（月）13：15～
赤岩中サブファミリーの中学校と各小学校で同時に実施した。

- ・第1回5校生活連絡協議会 令和元年7月1日(月) 午後3時30分～
岩淵小学校会場 赤羽警察署管内の状況や夏休みの生活や課題について
- ・第4回サブファミリー 防災研修講演会(教職員) 8月26日(月) 午前10時～
赤羽岩淵中学校会場 【学校・家庭・地域が一体となった危機管理】
講師：日本安全教育学会理事 矢崎 良明 氏
- ・第5回サブファミリー 防災教育研究授業 北区学校ファミリーの日②
赤羽小学校会場 令和元年10月2日(水) 午後1時45分～
防災・安全教育に焦点を当てた授業・研究協議の後、安全教育を重点に講演会研修を実施した。
- ・第2回5校生活連絡協議会 令和元年12月16日(月) 午後3時30分～
第四岩淵小学校会場 赤羽警察署管内の状況や冬休みの生活や課題について

3 成果と工夫した点

- ① 9分科会に分かれて、小中が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識することやつまづいている項目を洗い出し、小学校教諭と中学校教諭が話し合い、内容を深化させることができた。
- ② 災害時を想定し、保護者へ児童・生徒を引き渡す訓練を小中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったその足で、中学校へ来るという訓練が定着し、全く混乱なく実施できた。サブファミリーの小中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識は更に高まっている。
- ③ 北区防災学校・地域との合同防災教育授業・ファミリーの日の防災研究授業・夏休み防災講演会等、各小中学校で実践的な防災教育に取り組み地域自治会や消防署・各消防団が連携した訓練が継続的に行われている。本年度は自衛隊と連携し避難所開設訓練も行った。防災の知識に加え、登下校の安全や日常の安全について講演をいただき、最新の情報から新しい知識を知ることができ、小中の教員が再認識することができ教員間の話し合いも深まり、サブファミリーの職員が一体となってきている。
- ④ ファミリー小学校の6年生全員を対象にした中学校新入生体験授業の実施、ファミリー校の展覧会作品交流展示、吹奏楽部や陸上部と児童との交流を推進。小中学校のPTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加しての5校生活連絡協議会を長期休業前(夏・冬季休業日前)の年2回実施するなど、関係諸機関・PTA・児童を巻き込んだファミリー間の連携行事で信頼関係がさらに深まっている。

4 課題と改善の方向性

- ① 運営委員会で決定された運営方針をもとに、各校の教務主任・各分科会のチーフと連絡を取り合い職員の連携を深めていくことが重要である。
- ② 各校の特徴を生かしながら小中9年間の中で、地域と連携した教育活動を推進し防災について研修を深めた。今後の内容を検討が必要である。



小学校 道徳の授業

桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小

・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼）

1 交流・連携の方向性

①特色ある取組

桐ヶ丘中サブファミリーでは、北区小中一貫モデル事業の実施方策を踏まえ、各校から出された意見を集約し、「育てたい子ども像」を「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感の持てる子ども」とした。生活指導上の諸課題に関する情報を共有し、幼小中共同して取り組めるよう、「心の教育ネットワーク」を立ち上げ、地域や保護者と連携し、**道徳教育を中心とした心の教育**を実践してきた。

②授業改善

「教科による連携」として、音楽や図工・美術、算数・数学、体育・保健体育、外国語活動・英語など分科会形式で指導案検討会、授業研究、振り返りを行い、小中連携教育を行ってきている。授業では、中学生が6年生と一緒に、小学校の体育授業でバスケットボールを行ったり、喫煙防止授業を中学生が小学生対象に実施したり、英語科教員が小学校教諭と一緒に6年生の授業に参加するなど、交流と授業改善に取り組んできた。

③地域との連携

「心の教育ネットワーク」事業として、「桐ヶ丘子ども憲章」を策定し、地域の児童館や桐ヶ丘高校、地域振興室にも掲示を依頼し、「明るいまいさつをしよう」という取組が定着してきている。また、「ふれあい運動会」「ふれあいコンサート」などの地域行事では、小学生と中学生、地域の方々が一緒に運動や楽器演奏を行い、青少年桐ヶ丘地区委員会や自治会連合会などと協賛で実施してきた。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

①特色ある取組

4月に校長・副校長と担当指導主事で運営会議をもち、年3回の研修計画を立案する。副委員長校の副校長が記録をとり、特定公開フォルダに格納し、周知を図る。

②授業改善

中学校の授業公開以外は、事前に指導案検討会をもち、教科の教員が小学校にて授業の打ち合わせを実施している。教科の講師は各担当校で依頼し、小中連携をテーマに指導助言や研究協議を実施している。

③地域との連携

平成29年度より、教育総合相談センターより依頼を受け、分科会として不登校対応分科会を設置し、小中連携を図ることを試行している。SSWやSC、不登校対策室の指導員も同席し、課題のある事例検討を行い、解決のための手立てを協議している。

(2) サブファミリー全体での活動

①特色ある取組

「明るいまいさつをしよう」「はきものをそろえよう」「じかんをまもろう」の3つを桐ヶ丘子ども憲章として掲げ、6校園で取り組んでいる。またあいさつ標語を毎年児童生徒から募集し、生活指導主任がまとめて、ポスターを作成している。

②授業改善

言語活動が活発になるように、ミニボードを購入したり、黒板にデジタルタイマーを取り付けたり、教具の工夫をし、各校に希望をとり、配布し活用している。

③地域との連携

不登校の情報交換には、地域の方々や子ども食堂の関係者などの情報も活用し児童生徒の理解を図っている。



<視機能訓練の様子>

3 成果と工夫した点

①特色ある取組

共通の課題である問題に対して、小中合同研修会を企画し、個々の教員のスキルアップを図るように工夫している。

②授業改善

児童生徒の中には、板書をノートに写すことに困難を抱えているものがある。そこで、桐ヶ丘中学校の第1回研修会では、講師を招聘し、ビジョントレーニングについて研修を実施した。個々の課題に寄り添う指導方法の改善は今後とも継続していきたい。

4 課題と改善の方向性

①特色ある取組

5年間、心の教育に取り組んできたが、「特別の教科 道徳」の授業研究は、ある程度の成果がでているので、今後1年間かけて新しい共通課題を見つけていきたいと考えている。

②授業改善

校種は違っても、授業をよりよくしていくために、講師を招聘した授業研究は継続していきたい。例えば今年実施した「適正な評価について」の研修は、評価評定について、教員が知っておかねばならないことを共通理解する場となった。教科の授業内容だけでなく、全体の研修も年間計画に取り入れ、教員資質の向上を図っていきたい。



③地域との連携

桐ヶ丘中SFは、小中合同の行事が多く、桐ヶ丘地区と赤羽北地区の二つの青少年地区委員会に子どもたちが参加している。また、児童館行事では、小学生は参加、中学生はポスター制作や当日の運営スタッフとして、活躍の場がある。小さい頃から親しんでいる地域で、一緒に大人が子育てに参画する環境ができているので、今後とも継続していきたい。近隣の大きなマンションは、連合会長会に所属していないため、単独の行事が多いので、総合防災訓練などの機会を活用して、地域の住民で子育てを協力するという意識を根付かせていきたい。

神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

1 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携教育」から「小中一貫教育」へ。義務教育9か年の学びの連続性と、校種の特性を生かした「小中一貫教育」を着実に実践する。【学びのスタンダード構築から確立へ（仮称）北区立都の北学園の開校に向けて】
- (2) 授業研究のための分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、授業研究を行う。
- (3) サブファミリー総合防災訓練を核として、義務教育9年間を見通した防災教育を実施し、地域防災の担い手を育てる。【学び体験のコラボレーション】
- (4) 小中学校の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、小中一貫教育の学びの連続性を考慮した指導案の検討を通し、教員の授業力向上を図る。
- (5) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事や農業体験学習の交流を推進する。また、児童・生徒の相互交流を深めるとともに、中学校進学への不安感を排除する。

2 具体的な活動

(1) 打合せや調整

- ① 4月 5日（金）「管理職打合せ」午後3時～4時45分（神谷中）
- ② 4月15日（月）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ③ 5月30日（木）「防災訓練3校打合せ」午後6時30分～7時30分（神谷中）
- ④ 7月 8日（月）「SF連絡協議会」午後4時30分～5時30分（神谷中）
・各校の生活指導・現況報告・情報交換、赤羽警察署より情報提供
- ⑤ 8月29日（木）「SF全体会」午後1時30分～4時45分（神谷中）
- ⑥ 9月28日（土）「SF標語展最終審査会」午前11時20分～正午（神谷小）
- ⑦ 11月26日（火）「百人一首かるた会打合せ」午後3時45分～4時30分（神谷小）
- ⑧ 1月29日（水）「管理職打合せ」午後4時～7時（神谷小）

(2) サブファミリー全体での活動

- ① 5月11日（土）「SF合同引き渡し訓練」
各小中学校会場 午前10時40分～12時
- ② 6月 8日（土）「SF総合防災訓練」
神谷中学校会場 午前8時30分～12時
- ③ 6月11日（火）「小中一貫指導案検討会」
稲田小学校会場 午後3時30分～4時30分
- ④ 6月19日（水）「北区学校ファミリーの日
研究授業・研究協議会・全体会」
稲田小学校会場 午後1時45分～4時20分



サブファミリー総合防災訓練

・講師 田代 敏博 先生（敬愛大学客員教授 元東京都小学校道德教育研究会会長）
矢部 洋一 先生（品川区立小山台小学校長 元大田区教委統括指導主事）
若松 里佳 先生（北区教育委員会外国語教育アドバイザー）
塚本 真人 先生（北区教育委員会教育指導課教育指導員）

- ⑤ 8月29日（木）「小中一貫指導案検討会」神谷中学校会場 午後1時～4時45分
- ⑥ 10月2日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」
神谷中学校会場 午後1時40分～4時

- ・講師 田代 敏博 先生(敬愛大学客員教授 元東京都小学校道德教育研究会会長)
- 千葉 正法 先生 (多摩市立青陵中学校長)
- 小幡 政明 先生 (渋谷区立松濤中学校長)
- 牧野 順子 先生 (前品川区立荏原第六中学校副校長)

- ⑦ 5月10日(金)「農業体験：田植え」 9月13日(金)「農業体験：稲刈り」
- 12月7日(土)「農業体験：米の収穫祭」

⑧ 「サブファミリー標語展」

- ・「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集
- ・9月に最優秀作品12点を選び、ポスターを作成
- ・校内及び町会・自治会の掲示板にて展示

⑨ 10月29日(火)「神谷中学校授業参観説明会」

神谷中学校会場 午後2時30分～3時30分

⑩ 12月16日(月)「百人一首かるた取り大会」

神谷小学校会場 午後1時30分～3時30分

- ・中学1年と小学4年との合同交流戦を実施

⑪ 1月16日(木)「小中一貫指導案検討会」

神谷小学校会場 午後3時30分～4時30分

⑫ 1月29日(水)「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

神谷小学校会場 午後1時40分～4時

- ・講師 根岸 永福 先生 (元東京都小学校道德教育研究会会長)
- 村尾 知昭 先生 (元目黒区立鷹番小学校長)
- 橋本 暁 先生 (板橋区立新河岸小学校副校長)
- 高松 幸裕 先生 (北区教育委員会教育総合相談センター教育相談主任)



サブファミリー農業体験(田植え)

3 成果と工夫した点

- (1) 「サブファミリー総合防災訓練」及び「小中合同引き渡し訓練」は共に4年目となり、運営方法等を明確にしたため、小中学校教職員が見通しをもって指導することができた。そのため児童・生徒への定着も効率良く実現できている。
- (2) 「つまずきゼロプラン」の小中一貫学力向上部会を早い時期に開催できたため、小学校6年生で学力向上に取り組める期間を確保することができた。
- (3) 農業体験学習は、稲作を中心に小中合同活動での実施も定着し、地域との連携も含めて充実している。

4 課題と改善の方向性

- (1) 義務教育9年間を見通した防災教育の核である「サブファミリー総合防災訓練」の実施スタイルが定着してきたので、今後は内容、方法の工夫について検討する。
- (2) (仮称)北区立都の北学園の開校を見据えた授業連携を確実に推進する。
小中一貫教育のカリキュラムを考慮した授業を、小中学校教員のTTによる展開で実施していく。また、3校担当者会を通して、学校行事、生活指導等においても、現状を見直して改善を図る。3校の一体感をさらに高めていく。

浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

1 交流・連携の方向性

テーマ「情操教育」

「花・音・風—情操教育の推進—」として、浮間地区の豊かな自然環境を生かし、地域の方々と伝統あるサクラ草の栽培（小学校）を通して、郷土を愛する心を育む。また、音楽交流やボランティア活動などを推進して、社会貢献できる豊かな心をもった児童・生徒を育成する。

今年度は、新たに3校合同で音楽交流会を企画した。また、年間3回の学校ファミリーの日には、3校ともに道徳授業を行い、指導方法や評価の研修を通して情操教育の充実と小中一貫教育の推進を図った。

2 具体的な活動

（1）調整や話し合い

運営委員会を4月22日（月）に実施した。出席者は3校の校長と副校長で、今年度の研究テーマの確認を行った。3校ともに「道徳科」の授業を公開し、指導方法の検討や評価方法について学ぶこととした。

また、昨年度まで各小学校と別々に行っていた音楽交流を合同で行うこととした。

（2）サブファミリー全体での活動

①合同研修会

- ・第1回研修会 6月19日（水）西浮間小学校

各学年の「道徳科」の授業を見学し、その後、分科会、全体会を行った。分科会では、活発に意見交換ができたが、「時間が短すぎる」という感想が多く出された。全体会では、就学相談室主任の渡邊三枝子先生にご講演をいただいた。



授業風景



分科会



全体会

- ・第2回研修会 10月2日（水）浮間中学校

全学年全学級で「道徳科」の授業を公開した。分科会では、小学校の先生方からの新鮮な意見や感想が聞かれ、中学校の教員にとって有意義な会となった。全体会では、麗澤大学准教授の鈴木明雄先生にご講演をいただいた。

- ・第3回研修会 1月29日（水）浮間小学校

各学年の「道徳科」の授業を見学し、その後、分科会、全体会を行った。全体会では、教職員研修センター教授の木村良平先生にご講演をいただき、今後の研修について貴重なご助言をいただいた。また、研修会後には、3校合同で懇親会を開き、交流を深めることができた。

②中1ギャップ連絡会 合同研修会後に開催

第1回と第2回の連絡会は、中学校第1学年の担当教員と小学校元第6学年担当教員（専科も）が児童・生徒の情報交換を行った。第3回の連絡会では、中学校第3学年担当教員と小学校第6学年の担当教員（専科も）で来年度入学する児童の情報交換を行った。

③学習指導案検討会 8月26日（月）

4分科会に分かれ、学習指導案検討会を行った。小学校の教員には、当たり前の検討会であるが、中学校の教員には、初めての検討会となった。授業の流れや中心発問の内容等、すべての教員が検討し、第2回の研修会で行った「道徳科」の授業にその成果が現れた。

④地域清掃 8月30日（金）

3校のPTAが協力して、毎年浮間地区の地域清掃が行われている。各校で清掃区域を分担しての活動であるが、天候不良のため今年度は中止となった。浮間中学校では参加生徒が40名ほど集まり、校内清掃をすることとした。玄関や廊下、トイレ等を清掃し、夏季休業明けの9月2日（月）の登校日に備えることができた。

⑤音楽交流会 12月7日（土）西浮間小学校

昨年度までは、浮間小の合唱団が浮間中の文化祭に特別出演、浮間中の吹奏楽部が西浮間小のスクールバンド発表会に特別出演していたが、今年度は、3校合同の音楽交流会を実施した。

交流会当日は、保護者だけではなく、多くの地域の方に参観していただき、実りの多い交流会となった。



3 成果と工夫した点

- ・道徳の授業を通して、小中一貫教育の推進を図ることができた。昨年度から小学校では、「道徳科」が始まり、小学校の実践から中学校が指導方法や評価について学ぶことができた。
- ・3校合同で実施した音楽交流会は、PTAや地域の方に大変好評であった。今後は、浮間地区の行事として、学校以外の団体の参加も検討していくことになっている。

4 課題と改善の方向性

- ・道徳科をテーマとしてファミリーの日の研修を進めてきたことは、サブファミリーのつながりをより強いものとした。しかし、浮間地区の重要課題である学力の定着、向上に結びつけることはできなかった。
- ・浮間地区の特色や児童・生徒の特性を理解した上で、義務教育9年間を見通したカリキュラムマネジメントを行い、児童・生徒が誇りのもてる学校づくり、保護者・地域から信頼される学校づくりを今後も推進していく。
- ・Q-U調査を活用し、それぞれの学校や学級の現状を知り、児童・生徒理解に努めていく。

田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

1 交流・連携の方向性

研究テーマ：「小中一貫教育を視野に入れた教科における連携を探る」

- ①中1ギャップを無くし、学校教育の円滑な接続を実現させ、児童・生徒の確かな学力の定着を目指す。
- ②小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、9年間の積み重ねを目指す。
- ③地域一体となって、魅力ある学校づくりを目指す。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

○第1回運営委員会（校長・副校長・主幹教諭）

- ①日時：令和元年5月10日（金）15時30分～ 会場：田端小学校
- ②分担：ファミリー会議担当校（田端小）、三校連絡協議会担当校（滝四小）、ファミリー報告書担当校（田端中）
- ③内容：年間活動予定の確認、分科会組織の確認、オープンスクール・その他の活動予定の確認

○第2回運営委員会（校長・副校長・主幹教諭）

- ①日時：令和2年1月24日（金）15時30分～ 会場：田端小学校
- ②内容：令和2年度活動予定の確認、オープンスクールの運営・実施内容の確認

(2) サブファミリー全体での活動

○第1回学校ファミリー合同研修会（会場：田端中）

- ①日時：令和元年6月19日（水）13時40分～
- ②内容：授業参観5校時（7学級）、8分科会ごとの協議会、全体会（分科会からの報告）、担当校長からの指導講評

○第2回学校ファミリー合同研修会（会場：滝四小）

- ①日時：10月2日（水）13時40分～
- ②内容：授業参観5校時（13学級）、8分科会ごとの協議会、全体会（分科会からの報告）、担当校長からの指導講評

○ファミリー小学校6年生体験入学（会場：田端中）

- ①日時：令和元年10月4日（金）13時40分～
- ②内容：生徒会による学校紹介、部活動体験

○田端学びの郷オープンスクール

（会場：田端中・介護施設はくちょう会館・田端文士村）

- ①期日：令和元年11月1日（金）、11月8日（金）13時30分～
- ②内容：ファミリーの児童生徒が学年の枠を超えて学び合う。その道の一流の講師からその仕事や一芸に取り組む『心と技と情熱』を学ぶ。



『マジック』



『モバイル』

○第3回学校ファミリー合同研修会（会場：田端小）

①日時：令和2年1月29日（水）13時40～

②内容：授業参観5校時（16学級）、8分科会ごとの協議会、全体会（分科会からの報告）、担当校長からの指導講評

3 成果と工夫した点

○年度当初のファミリー運営委員会に学校長も参加し、学校ファミリーの交流・連携の方向性を確認し、改善策について話し合うことで効率的でかつ具体的に取り組みが審議できるようになった。

○ファミリー合同研修会では、事前に指導案を送付し合い、各分科会教員に授業内容を知らせておくことで参観の視点が焦点化し授業後の協議会の場でも意見の交流が活発にされるようになってきた。

○特別の教科道徳では、健康教育と心の教育を分離し道徳に集中した研究授業としたことでより道徳授業について具体的な話し合いをもつことができた。

○田端中学校の研究テーマを受け、「主体的・

対話的で深い学び～ピクトグラム～」を活用し、指導計画の本時の授業展開を《導入（主体的な学び）・展開（対話的な学び）・まとめ（深い学び）》を設定し、問題解決的授業展開の実践に結び付くように努めた。1時間の流れの中に意図的に位置付けることで児童・生徒の学びに関する教師の意識改革を図ることができた。

○平成29・30・令和元年北区教育委員会研究指定校として田端中学校が3年間の研究発表を行い、サブファミリー小学校の連携と研究課題の共通理解が深まった。

主体的・対話的で深い学び～ピクトグラム～		
主体的な学び	対話的な学び	深い学び
★前向きな心を育める 	★互いの考えを比較する 	★思考して問い続ける
★見通しをもつ 	★多様な意見を収集する 	★年度・長期の学習計画
★自分と結びつける 	★思考を表現し聞き返す 	★年度・長期の学習計画
★学び続ける 	★多様な手段で活用する 	★自分の思いや考えを結びつける
★振り返って気づかせる 	★他人が先に考えたことを評価せよとする 	★知識や技能を転用しながら改善に臨んでいる
	★共に考えを高め上げる 	★自分の考えを形にする
	★結論して課題解決する 	★新たなものを創り上げる

4 課題と改善の方向性

○児童・生徒の校内外での情報をファミリーの教員間で共有し、一貫した指導を行うことで地域に生き、地域を支えることのできる人間を育てることが出来るものとする。

○オープンスクールについては、10年間以上に亘って継続し取り組んでいる。地域住民や保護者が求め期待する児童・生徒像を改めて探り、各講座の内容や取り組みについて見直ししながら、田端中ファミリーの一層の連携を深めていきたい。

滝野川紅葉中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼）

1 交流・連携の方向性

- (1) 5校1園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫」～滝紅中サブファミリー授業スタンダードの実践～を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組む。
- (3) 「子供たちがどのように学ぶか」という視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細かな指導の充実を目指す。
- (4) 伝統野菜の「滝野川ごぼう」等の栽培や、標語の募集など、滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、地域にあるフランス学園との交流を通して国際理解教育を充実させ、地域に誇りをもつ活動や地域と関わる活動を行う。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・年度当初：5校1園の校園長・・・本年度の活動計画、年間指導計画の確認
- ・5月10日：第1回運営委員会（中校長・各校副校園長・教務主任）・・・活動方針・実施計画、部会の組織、運営方法、構成員の確認等
- ・随時：教務主任・生活指導主任・・・方針の共通理解、日程調整等

(2) ファミリー全体での活動

① 授業研究・授業交流

- 授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、体育・保健体育、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7教科の分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。
- ・第1回学校ファミリーの日（6月19日）は滝野川紅葉中学校で行われた。この日は教科を数学に絞り、研究テーマに基づいた授業についての協議・意見交流を分科会ごとに行い「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫」という演題で早稲田大学大学院教授の高橋あつ子先生にご講演いただいた。
 - ・第2回学校ファミリーの日（6月29日）は滝野川第三小学校の研究発表会に参加した。本校は、北区教育委員会研究協力校・全日本小学校学校図書館研究会研究推進校として2年目にあたり、『「主体的・対話的で深い学び」を支える学校図書館～3つ（読書・学習・情報）のセンター機能を活かして～』という研究主題のもと研究を深めてきた。国語・社会・総合の授業研究も行われた。
 - ・第3回学校ファミリーの日（1月29日）は滝野川第二小学校で分科会ごとに授業研究及び協議会を行い、それぞれに講師をお招きしご指導いただいた。

②体験授業

- ・11月19日…サブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験授業を実施。生徒会役員による中学校生活の紹介、中学校教員による授業体験を行った。

③国際理解教育（フランス学園との交流）

- ・滝野川紅葉中学校…6/1リセ文化祭で吹奏学部演奏、12/4リセへ訪問し異文化交流、1/30リセの生徒が滝紅中の授業に参加・華茶道体験
- ・たきさん幼稚園…11/18リセの子どもが幼稚園に来園・交流（遊戯）
12月 ビデオレター交換 相手の国の言語で自己紹介、歌を披露
- ・滝野川もみじ小学校…5/27 5年生が体育館でフランス学園の児童29名と、ボッチャ（球技）と合唱披露で交流、パリ大学区長ジーク・ペクー氏らが視察
- ・その他の学校…総合的な学習の時間で、フランスと日本の文化等紹介
学級ごとにリセの児童との交流。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・サブファミリー全校で滝野川ごぼうの栽培
- ・地域の方々と連携し、児童生徒の活動を支援できる体制を作った。谷端小学校では、自然を慈しむ心を養うこと、食の大切さを考えること等をねらいとして、栽培活動を日本農林社の御指導のもと行っている。今年度は栽培場所を移動したことにより収穫できなかった。野菜を育てることの難しさを身をもって感じた。

⑤標語の募集

幼稚園・小学校は「思いやり・絆」、中学校は「絆」をテーマに標語を募集し審査後、関係各所に掲示した。

3 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方を探究することができた。事前に指導案検討会を行なうことで、授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプラン」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、各分科会で講師をお招きし、指導助言をいただき、小中9年間を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 今後も分科会主体の研究を続けるか、授業交流の新しい方法を考えていくか検討が必要である。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (3) 新学習指導要領全面実施に合わせて「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが、今後の課題である。

飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

1 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた学力向上、児童・生徒交流を2つの柱として、小中一貫教育の推進を充実する。

育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供



小中合唱交流

2 具体的な活動

(1) 全体会および小中連携活動

- ① 5月 8日（水）全体会・打ち合わせ会 飛鳥中学校 15時～
- ② 6月 19日（水）公開授業（全教科・全学級公開）
滝野川小学校 13時40分～
- ③ 7月 6日（土）小中連携引き渡し訓練
- ④ 8月 30日（金）理科小中合同実技研修会
（講師を招聘しプログラミングを活用した実験） 飛鳥中学校
- ⑤ 10月 2日（水）公開授業（全教科・全学級公開）
飛鳥中学校 13時30分～
- ⑥ 1月 29日（水）公開授業（全学級公開・小、中学校教員によるTT授業）
西ヶ原小学校 13時40分～



S F分科会打ち合わせ



理科実技研修



飛鳥喫煙防止教室

(2) 分科会の具体的な取り組み

[学力向上]

① 算数・数学科

- ・新入生体験入学における数学授業体験、見学。（10月）
- ・中学3年生が小学6年生に、算数・数学の問題解決の授業を行う。（2月）

② 社会科及び、外国語活動・英語科

- ・新入生体験入学における社会科授業体験、外国語（英語）授業体験、見学。（10月）

③ 道徳科

- ・滝野川小学校での公開授業に3校の教員が参観。道徳科分科会協議会で意見交換。（6月）

④ 小中連携「つまずきゼロプラン」会議（8月）

[児童・生徒交流]

① 保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ケ原小で保健「たばこの害」についての授業を行う。(1月)

② 書写・図工・美術・家庭

3校で児童・生徒の作品を巡回し、校内に掲示して作品交流を行う。(12月～3月)

③ 運動会招待演奏

西ケ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。(6月)

④ 合唱交流・参加

飛鳥中(1年)・滝野川小(6年)・西ケ原小(5・6年)が飛鳥中で合同合唱交流。(11月)

混声三部合唱「夢の世界を」「パプリカ」

⑤ 部活動体験・交流

飛鳥中での新入生体験入学で、生徒会役員の学校紹介と各部活動へ体験入部。(10月)
小学校金管バンドが飛鳥中吹奏楽部練習に参加し、練習方法を学ぶ。(3月)中止



部活動体験



中学校3年生による授業



小・中学校教員TT授業

3 成果と工夫した点

- (1) 8月の小中連携によるつまずきゼロプラン協議会が定着してきた。今後も現中1の北区基礎・基本の定着度調査の結果から各教科の課題や、現6年の学習習慣について協議し、各校の指導に活かし基礎学力の定着や学習習慣を定着させていく。
- (2) 今年度から実施の中学校道徳科は、SF小学校2校の先行実施を参考に研修を進め、具体的な指導に基づき授業内評価としてまとめることができた。
- (3) 第3回目の学校ファミリーで、外国語活動だけでなく、算数、国語、理科、家庭科、体育の小・中学校教員TTによる研究授業を行うことができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) これまでの各分科会ごとの連携、交流を見直し、特に、学力向上に向けた取組について、各教科ごとの連携に変え、運営方法も含めた改善を図っていく。小中の時程、カリキュラムの違いを考慮し、各教科ごとに指導案検討を行い調整していく。
- (2) 道徳授業地区公開講座は、保護者・地域に向けて3校独自に実施する。
- (3) 3回の学校ファミリーでは、各教科研究授業の中に道徳科を1回は組み込み、道徳科授業の工夫、評価について小中連携での検討を行う。

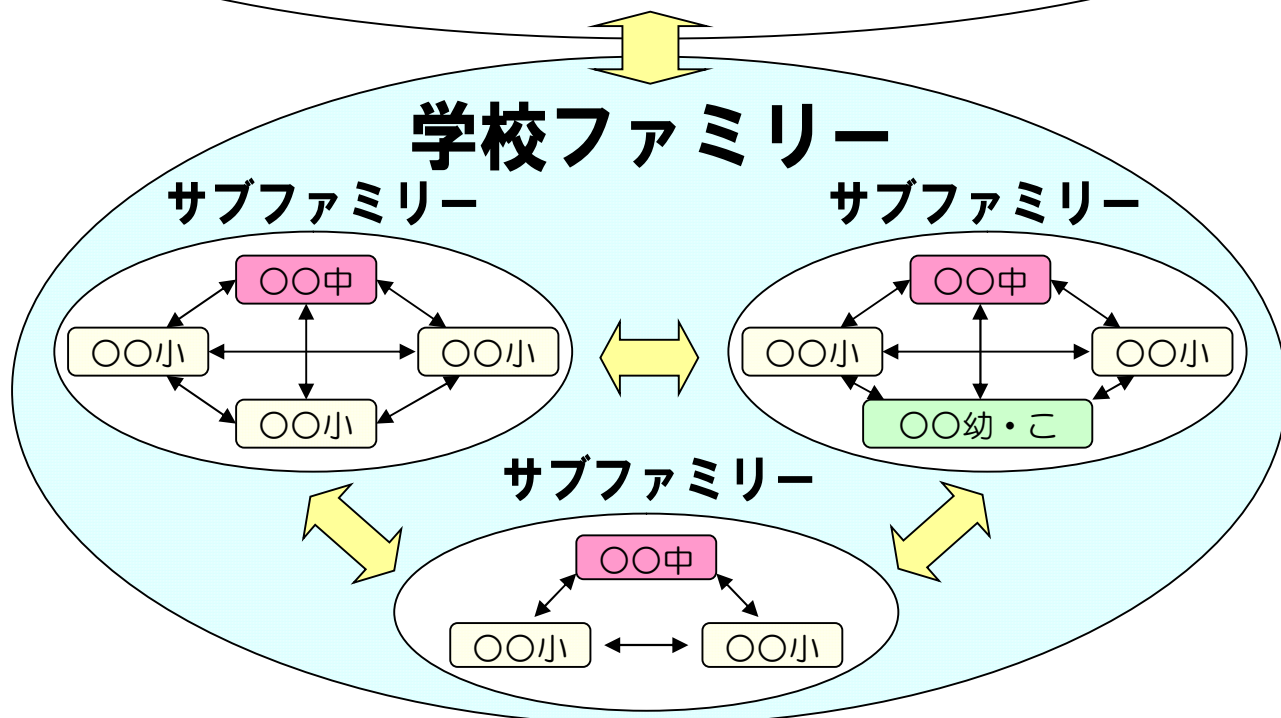
北区学校ファミリー構想概要

1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2 北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3 学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

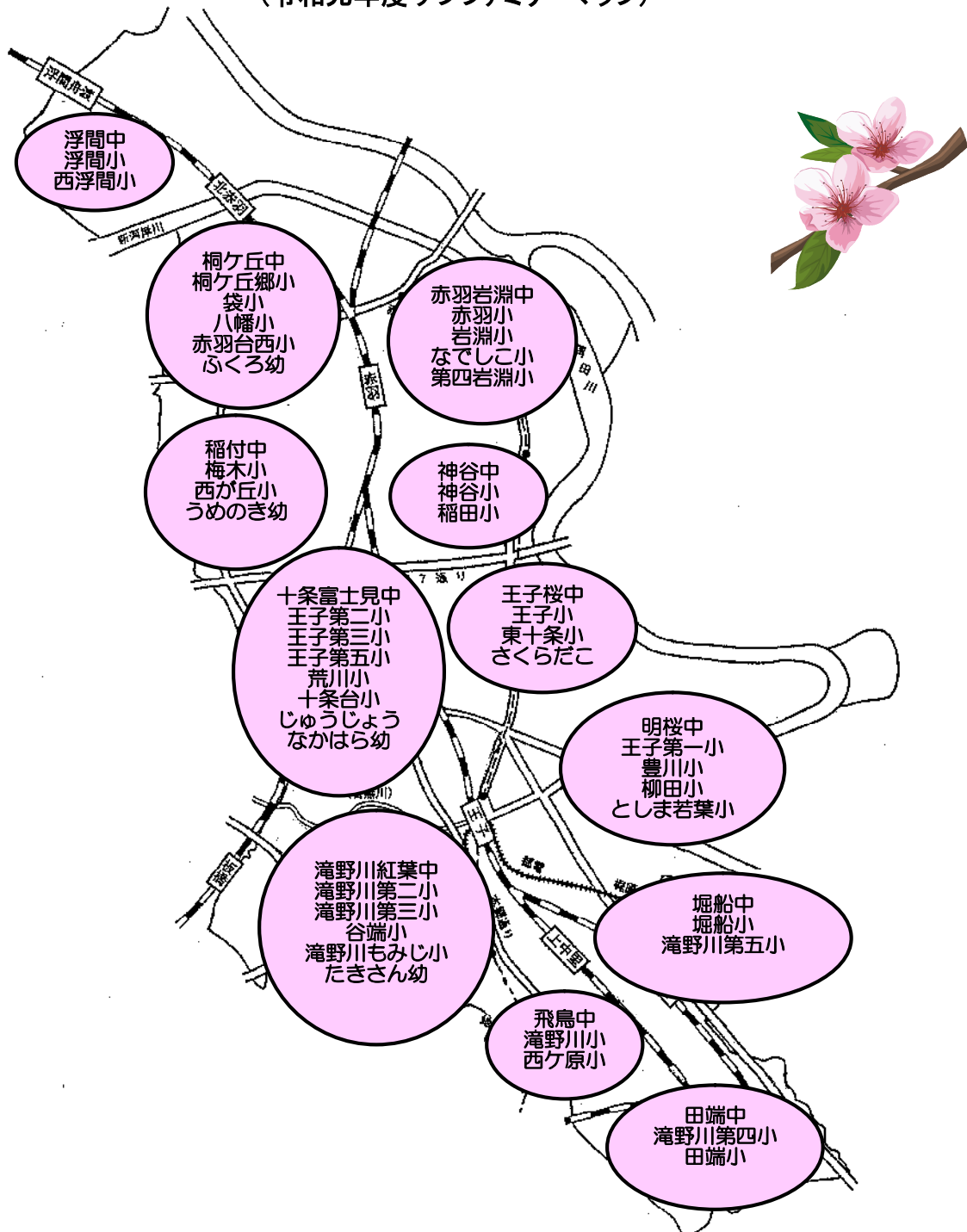
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(令和元年度サブファミリーマップ)



6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

令和元年度北区学校ファミリー事業報告書

令和2年3月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

31-1-166